



重文指定の 灯台どうだい?

不動まゆう

へさき
部崎灯台
(福岡県北九州市)

②

く、どっしりと安定感がある。「日本の灯台の父」と呼ばれるR・H・ブラントンが建てた石造りの灯台は背の低いものが多。私は建設地の海拔が高いこと、そして地震を考慮したことが理由なのだと思っていた。

しかし先日、私が灯台の師と仰ぐ方から「完成

を急ぐ必要があったから、工期が短くて済むよう低い灯台を建てたのだろ」と聞いた。え!

明治初期の象徴的な背の低さ

(つづく)

島燈台を除く)。これは列強国の船舶関係者から一日も早く近代的な灯台の光を灯してほしいといふ要望に答えた結果な。か。そう考ると部崎灯台は明治初期に建てられた石造りの灯台として、まさに象徴的な姿をしている。

レンズは日本で使用される中で唯一の珍しいタイプだ。フランスのソーラー・ハーレ社製で明治28年(1895)年に導入された。確かに

建設が求められた灯台を、工期の短い木造か鉄ばなしの光)も放つのだ。灯質は「連成不動單

造で建てている(神子元関白光毎15秒に1閃光で、ずっと光っている中で15秒に1回ピカッと強く光って見える。暗くな

る時間がなく、灯台の位置を見失うリスクが少ない。それだけ重要な光と実はこの場所は江戸時代に念仏岬と呼ばれる海の難所だった。航海の無事念仏にすがるほどだったのだ。そのことを知ったのだ。そのことを見失うリスクが少なくて復元され語り継がれている。

